

松永 千紗

1. 事業実施の目的

サンノゼ日本街におけるお盆祭り (Obon Festival) の実施状況に関する調査

2. 実施場所

アメリカ合衆国カリフォルニア州サンノゼ市

3. 実施期日

2019年 7月8日(月)～ 2019年 8月1日(木)

4. 成果報告

●事業の概要

本調査の目的は、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンノゼ市中心部に所在するサンノゼ日本街 (Japantown San Jose) における、お盆祭り (Obon Festival) の実施状況を把握することであった。この祭りは、毎年7月に浄土真宗サンノゼ別院 (San Jose Buddhist Temple, Betsuin) を中心に開催されており、2019年で84年目を迎える。祭囃子に合わせて1500人以上の浴衣や法被を着た踊り子が踊り、二日間を合わせて二万人以上の観客が集まる、サンノゼ日本街最大規模のイベントである。

報告者は、変容する現代のサンノゼ日本街のあり方を、日系三世に注目した上で、彼らの実践から明らかにすることを試みている。本調査は、お盆祭りという、宗教に関わらず日本街全体が関係することになる行事を通して、日系人や非日系人がいかに日本街に関わるのかを具体的に把握することを目指した。

以下では、サンノゼ地域において、報告者が実際にイベントへ参加し観察を行う参与観察と、当日得た情報、人脈に基づき、後日行なった補足インタビューをまとめる。なお、サンノゼ日本街におけるお盆祭りにおいて、報告者は祭り当日である13日、14日を含む前後4日間、サンノゼ別院のボランティアとして準備および片付けに参加している。また調査の補足のため、サンノゼ以外のお盆祭りでも一般参加者として参与観察を行った。

●本事業の実施によって得られた成果

以下では、報告者による民族誌的調査をもとに、サンノゼ日本街におけるお盆祭りの実施状況について報告する。

1. お盆祭りの会場

サンノゼお盆祭り会場の中心となるのは、5th ストリートに面するサンノゼ別院の敷地、及び、それらを繋ぐ道路である。道路は、ウエストテイラーズストリートからジャクソンズストリートまでの約300mを封鎖し、車の出入りができないようにブロックが設置された(写

真 1)。本堂と体育館前の道路の中央線上に櫓が 3 つ生まれ、これを囲むように白線が 4 重に引かれた (写真 2)。盆踊り参加者は、この白線に沿って踊る。櫓と櫓の間には、太鼓やマイク、スピーカーなど、また音響用のテントが設置された。

別院の本堂に向かって右手にある体育館とその駐車場に設置された大きなテントが飲食ブースとなる (写真 3)。飲食ブースでは、今川焼き、串焼き、テリヤキチキン、てんぷら、ちらし寿司、餃子、トウモロコシなどのほか、各種ソフトドリンクが提供された。また、数年前から日本街に隣接する地ビール工場から、ビール各種が機材ごと寄付されており、これを販売する専用のブースが設けられている。体育館内にはテーブルと椅子が並べられており、来場者はここで座って飲食が可能である。体育館後方では、お盆関連グッズ (T シャツやエプロンなど)、別院婦人会による饅頭やハンドメイド雑貨などが販売されている。また館内では、イチゴショートケーキ (Strawberry Shortcake)、ラーメンが販売されている。本堂向かい側の敷地内では、1 回 1 ドルで遊ぶ子供向けのゲームコーナーとビンゴ大会の会場、またラッフル (宝くじのようなもの) が販売されている (写真 4)。お盆祭り期間中、本堂は一般に開放されており、中に入って内装を眺めることができる。また、本堂前の庭には、主に NPO 団体らによるブースが出展されていた。



写真 1

封鎖のため道路に置かれたブロック。
左奥に見えるのが櫓。

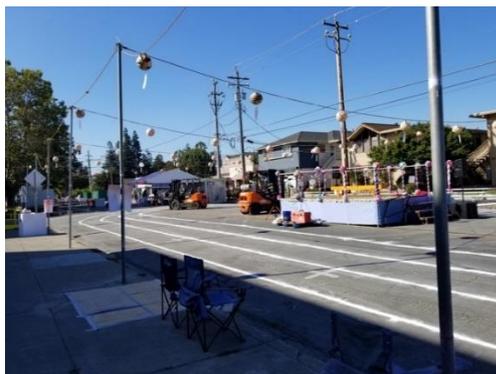


写真 2

道路中心に置かれた櫓。
道路の白線に沿って、踊りの円が作られる。



写真 3

賑わう飲食ブース。



写真 4

子供向けゲームコーナー。奥のテントがビンゴ用。

2. お盆祭りの準備過程

祭りの準備は数ヶ月前から順次開始される。準備作業を行うのは別院の祭り運営メンバーが中心となっている。彼らは、いつまでに、何を行う必要があるのかを、ほとんど体感的に理解しているように見られた。実行委員会や責任者は当然任命されているものの、ボランティアとして参加している多くの人々は自発的に行動していた。ブースによっては、一つの家族が長年リーダーシップを取ってきており、内部が家族によって運営されている様子も見られた。準備作業に参加する人々の中には十数年～数十年、主催者側として祭りに関わってきたベテランが多く存在する。

ボランティアは、必ずしも別院メンバーや仏教を信仰している人に限らない。日系二世 A 氏が取り仕切る今川焼きブースには、数人の白人かつ非別院メンバーのボランティアが居た。A 氏によると、彼らは A 氏の息子の高校時代の友人たちであり、約 10 年前に声をかけて以来、毎年ブースを手伝ってくれているという。またボランティアには、10 代半ばまでの子どもたちが多く見られた。彼らは別院が主導するスカウトのメンバー及び日曜学校の生徒である。年上の子どもがリーダーシップを取り、野菜の下ごしらえ等を行っていた。

前日の金曜日の午後には、道路が封鎖され、櫓が組まれた。また、飲食ブースで使う大量の肉や野菜の下ごしらえが夜までに完了する。チキンテリヤキの鶏肉は、2 日前から特別なレシピのタレに漬け込まれ、業務用の冷蔵庫で保存された後、本堂裏の専用台で焼かれる(写真 5)。特に時間が掛かるのは、串焼き用の大量の野菜と肉を手作業で串に刺す作業、また、ちらし寿司に用いる大量の米を炊き、冷ます作業である。串焼きの準備は、金曜午後約 150 人のボランティアが一斉に行なった(写真 6)。ちらし寿司の準備は、金曜から土曜まで夜通し行われた。運営委員会によれば、2019 年は例年に比べてボランティアの数が少なかった。しかし、特に大きな問題はなく、準備が進められていった。



写真 5

テリヤキチキンが焼かれているところ。



写真 6

一斉に行われる串焼きの準備。

3. お盆祭りの当日の進行と盆踊り

お盆祭り当日、多くのボランティアが 8 時頃までに集合した。チラシ寿司を作る作業の他、それぞれに担当するブースの準備を行う。当日、飲食ブースがオープンするのは 12 時だったが、11 時頃までに多くの客が集まっていたために、早めにオープンするブースが多かった。12 時半からは櫓横で太鼓グループによる演奏が始まった。サンノゼ日本街を拠点とするサンノゼ太鼓、また、千鳥バンドの他に、大学サークルなど 4 つのグループが演奏した（写真 7）。

婦人会に長年加入している B 氏によると、盆踊りは、1 日目と 2 日目では趣が違うという。土曜日である 1 日目は非日系人の参加が多く、総参加人数も多い。また日曜日の夜である 2 日目は、1 日目より人数が落ち着き、より日系人が多く、「居心地がよい(homie)」ⁱⁱ。1 日目の夜、まだ陽が沈んでいない 6 時頃から、道に人が増え始めた。7 時 15 分頃、ウエストテイヤーストリート側の櫓周辺に、踊り参加者たちが列を作った。先頭は、別院の輪番を務めるサカモト氏と 15 人程の指導役およびそのサポーターたちである。時間になると、「信州音頭」の拍子に合わせて、4 列に並んだ参加者たちが、事前に引かれた白線に沿って円を作る（写真 8）。参加者たちは浴衣を着ている者も多いが、「法被（Happi Coat と呼ばれている）」もよく見られた。先頭集団は櫓の上に登り、周りに踊りの手本を見せる。7 時 30 分から 9 時ごろまで、間にアナウンスを挟みつつ、14 曲の盆踊りが続いた。曲ごとに、うちわ、カチカチ（竹製の板 2 枚を指で挟んで音を出す）、扇子、手ぬぐいが用いられる。午後 8 時頃、踊り参加者数が数えられ、去年を上回る 1526 人が記録されたというアナウンスが流れ、歓声が上がった。

盆踊りで踊る曲の選択は、サンノゼ別院の踊り担当者が決定し、毎年若干の変更が加えられている。例えば、2019 年は、東京オリンピック委員会が Youtube に公開した「五輪音頭」が選曲されたⁱⁱⁱ。また、補足的に参与した同じサンノゼ地域内にある他のお盆祭りと比較すると、選曲が異なっていた。また、同一の曲であっても、踊り方が異なっていることが明らかになった。サンノゼ別院の場合、踊りの先生たち^{iv}によって、別院に独自の踊り方が継承されていると考えられる。ただし、全米の日系社会で最も人気があるといえる「炭坑節」は、報告者が参加した 4 つのお盆祭り全てで踊られていた。

2 日目も 1 日目と同様に 12 時から飲食ブースがオープンした。1 日目の夕方まで天ぷらが売り切れた為、2 日目の朝に野菜が追加された。飲食ブースでは、天ぷらとビール、日本酒の列が非常に長かった。2 日目は、B 氏が述べていたように、やや人出が少なく、1 日目に見られなかったお年寄りの参加が多く見られた。足の悪いお年寄りは、踊りの輪の中に参加せず、輪を囲むように置かれた椅子に座って、踊る人々、多くの場合、子どもや孫、曾孫などの血縁者を見ていた。



写真 7

太鼓グループの演奏と集まった群衆。



写真 8

踊りのために列を作る参加者たち。

4列のまま、1時間で櫓を一周する。

4. 日本街とお盆祭り

報告者が参加した他 3 つのお盆祭りと比べると、サンノゼ日本街におけるお盆祭りは、規模の大きさのみならず、特に白人の来場者数が多いように見られた。報告者が参加したのは、マウンテンビュー仏教会、ワトソンビル仏教会、ソノマ園満寺が主催するお盆祭りである。報告者と共にサンノゼ日系アメリカ人博物館でボランティアをしていた日本人移住者の D 氏は、サンノゼお盆祭りへの来場者を見て、「サンノゼでこんなにたくさん白人が居るのを初めて見た」と述べた。

サンノゼ市内における人口の公的な数字では、ラティーノ、アジア系、白人の比が同率に近いが、場所によっては白人がほとんど見られない地域がある。D 氏が居住するのは、市内のラティーノとアジア系が住む地域であり、大学内にも白人は少なかったという。確かに、報告者の目にも、群衆の多くが非日系人であることがわかり、一見して分かる白人がやや多いようにも見られた。実際に、ビールのブースは、比較的白人の比率が高かった。また、盆踊りの際、浴衣を着てお手本を見ずに踊ることができる非日系人の姿は他のお盆祭りでも見られたが、サンノゼの場合、当日歩道から飛び入り参加する非日系人が多く見られた。特に白人の場合が多く、列に並んだ踊り参加者たちも、それを好意的に受け入れる場面が観察された。来場者に非日系人、特に白人が多く見えた理由として、一見してわかりやすいということ、また、お盆祭りにおいて日系人はほとんどホスト側に回っており、他の人たちが働いている間に、群衆に混じって余暇を楽しんでいる人々が少なかったことが考えられる。ただし、実際の理由は不明であるため、サンノゼ市の人種構造を踏まえたサンノゼ日本街と日系人、非日系人の関係については、より一層深い調査が必要である。

お盆祭りは、主催者であるサンノゼ別院の運営資金集めが大きな目的の 1 つである。しかし、サンノゼ日本街全体にとって非常に重要な行事であるといえる。長年祭り運営に携わってきた C 氏によると、年々来場者数が増加しているという。昼食時には別院の飲食ブー

スのみならず、日本街中の飲食店の前に行列ができていた。特にかき氷を販売している「シェウエイドウ」の前の行列は絶えず、売り切れによって閉店していた。日本のお土産物や浴衣、小物などを販売する店やコーヒーショップも賑わっており、お盆祭りによる集客効果は非常に大きかったことが予想される。さらに、お盆祭りに関わる多くの物資がサンノゼ日本町およびその周辺から寄付されている。金銭的な援助のみならず、食べ物やアルコールが寄付されている。特に2001年以降からは、日本街に隣接する地ビール工場から寄付されたビールが、全体の売り上げの割合でも大きくなった^{vi}。

加えて、お盆祭りを運営する多くのボランティアは、別院のメンバーを中心に、サンノゼ日本街を普段から訪れている日系人たちが大きな割合を占めていたといえる。さらに、お盆祭りおよび盆踊りの参加者は、宗教を問われない。別院に隣接するウェスレーメソジスト教会のメンバーたちもまた、輪の中に入っていた。

以上のことから、サンノゼ日本街におけるお盆祭りは、浄土真宗の宗教儀礼ないし運営資金集めという意味のみならず、日本街全体をあげて取り組む一大行事として実施されていたといえる。

5. 博士論文における位置付け

本調査では、サンノゼ日本街におけるお盆祭りの実施状況を明らかにした。サンノゼ別院のメンバーを中心としたボランティアによって、祭りは運営されており、その利益は別院の運営資金として用いられる。別院メンバーの他、サンノゼ日本街に関わる人々や会社からの金銭や物資の寄付がこれを支えていた。また、2019年は盆踊りの踊り参加者数が最高人数の1526人となり、同時に収益も過去最高額になった。こうした数字に見られるように、サンノゼお盆祭りの規模はこれまでになく拡大している。その一方で、ボランティアの総数は減少していた。また、来場者には日系人よりも非日系人、特に白人が多いと感じるインフォーマントも居り、これについてはサンノゼ市内の人種構造を踏まえ、今後調査が必要である。

本調査で対象となったお盆祭りは、サンノゼ日本街全体に関わる行事の中で、最も大きい。加えて、これを主宰しているのは日本町ではなく別院であるものの、その規模と集客性により、その影響は街全体に及んでいた。本調査では、主催者側の組織にボランティアとして全日参加し内側からの理解を深めることができた。しかしその一方で、非日系人の日本街関係者がどのような反応をしていたのか、非日系ビジネスはどのような対応をしたのか、については掘り下げるができなかった。ただし、祭りには非日系人が多く訪れており、祭りをイベントとして消費しており、こうした来場者の規模が非常に大きいことは把握できた。また、日本街の空間的境界線上にある非日系人の地ビール工場が、祭り全体の収益の面で重要な役割を果たしており、日本街内部での存在感を向上させている点は、今後の調査において非常に重要となると考えられる。以上のことから、本調査は、博士論文において、祭りという非日常的な場における、日系人と非日系人および日本街という空間の関係を明らかにする際に、基礎となる情報を獲得することができたと言える。

●本事業について

本事業の援助を受けて得られた研究成果は、報告者の博士論文において、重要な位置をしめるものである。しかし、地価や物価の高いアメリカ合衆国カリフォルニア州における現地調査は、経済面で非常に厳しい。本調査も事業からの援助無くしては実現しなかったであろう。こうした状況にも関わらず、研究成果を出し続けられるのは、本事業の援助体制のおかげであり、有り難く思う。このような事業が継続され、今後も学生が良い研究を続けられる環境が続くことを希望している。

ⁱ アメリカにおける浄土真宗寺院は、日本とは違い、家単位で所属する檀家制ではなく、個人を重視するメンバーシップ制をとっていることが多い。サンノゼ別院もメンバーシップ制である。

ⁱⁱ 上記、B氏の表現。2019年7月10日（水）、準備作業中の報告者による聞き取り。

ⁱⁱⁱ 「東京五輪音頭 2020」URL: <https://www.youtube.com/watch?v=VgIXNdP18XE>（最終閲覧：2019/08/28）

^{iv} 職業として、踊りを教えているのではなく、盆踊りに限って指導役を務める人々を指す。多くが婦人会メンバーであり、親世代から教わったものを、再び、自らの子世代に教えている。

^v City of San Jose 「FACT SHEET: HISTORY & GEOGRAPHY」URL:

<http://www.sanjoseca.gov/DocumentCenter/View/780> サンノゼ市内の人種構成では、アジア系 (Asian) が最も多く 34.2%、ヒスパニック系 (Hispanic) が 32.8%、ヨーロッパ系 (White) 26.7%、アフリカ系 (African-American) 2.8%、その他 3.5%である。アジア系の中で最も多いのは、ベトナム系(10.6%)である。

^{vi} C氏の話による。2019年7月25日（木）、別院にて報告者による聞き取り。